＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

つくろう京教の快適空間

～掲示・サインデザイン

からの挑戦～

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第１章　プロジェクトの概要

１．プロジェクトの目的

私たちは看板、標識、案内など様々なサインに囲まれて生活している。見る人の行動を指示・誘導するコミュニケーションメディアのひとつであるサインは、文言やデザインによってそこで生活する人々の快適さに大きな影響を与える。

近年、鉄道のマナー広告や、飲食店やコンビニで見かけるトイレの使用マナーについての注意書き、駅構内や図書館の案内図など、見る人の印象を考慮し、工夫したサインが見られるようになった。

一方、本学での掲示物や案内板などサインは、見る人の快適さやわかりやすさが十分考慮されていないのではないかと感じるものが多くある。

以上をふまえて､今回のプロジェクトでは、見る人にとって心地よく、かつ効率的に行動を誘導できるようなサインを考え、掲示することで、学内をより快適な空間にすることを目的とする。

２．代表者および構成員

・代表者

的崎あかり　教科教育専攻
　　家政教育専修　１回生

・構成員

山田純貴　教科教育専攻
　　英語教育専修　１回生
蛭子明日香　教科教育専攻
　　英語教育専修　１回生
赤松大輔　学校教育専攻
　　教育・心理学コース　１回生
村田遼平　教科教育専攻
　　家政教育専修　２回生

３．助言教員

延原理恵（家政科）

第２章　内容や実施経過など

１．サインに関するセミナー受講

①目的

ＷＡＹＳＨＯＷＩＮＧとブランディングデザインに関するデザインコンサルタントとして数々の受賞歴を持っているパー・モレップ氏のサインに関するセミナーを受講することで、サインに関する理解を深める。

②概要

「SDA 創立 50 周年記念事業『Per Mollerup 特別セミナー』」

日時：平成 26 年 10 月 21 日
　　18：30～20：30
場所：グランフロント大阪
　　北館７階ナレッジサロン
主催：日本サインデザイン協会

２．実地調査

（1）SDA 賞受賞作品と人の集まる場所のサインの視察

①目的

SDA（公益社団法人日本サインデザイン協会）が優れたサインデザインとして表彰したサインと人の多く集まる場所にあるサインを見学し、デザインや実際に使われている様子を調査する。

実際に利用されているサインデザインを見ることで、良いサインとはなにか考え、制作の手がかりとする。

②見学地

〈SDA 受賞〉

・渋谷ロフト
・すみだ水族館
・帝京平成大学

〈人の多く集まる場所〉

・新幹線内　　・グランフロント大阪
・京都駅　　・東京メトロ
・大阪駅　　・西武鉄道
・東京駅　　・中野ブロードウェイ

（2）他大学のサインの現状を調査

①本大学以外の大学内の掲示・サインの現状を調査し、制作の手がかりとする。

②見学地

・近畿大学　　・明治大学
・東京大学　　・青山学院大学
・東京芸術大学・早稲田大学
・帝京平成大学

3．掲示・サインの制作

今回は、本学の掲示・サインの中でも、内容の重複とわかりにくさが気になっていたエレベーター横のポスターと、学内の建物の中で迷ったことがあるという学生が多い D 棟入口の案内板の二点の掲示・サインを制作することとした。

（1）エレベーター横の「エレベーター使用自粛」についての掲示

①場所

A 棟、B 棟のエレベーター横

②現状

主な問題点は、ほぼ同じ内容の掲示物が３つ並んで掲示されていることや、文字ばかりなので一目で理解しにくく、注目度が低いこと。見る側のことがあまり考慮されていないので、気持ちよくエレベーターの使用を自粛しようという気持ちになれないという点である。

（2）D 棟の案内板

①場所

D 棟校舎入口付近　教室案内板（教室配置図）

②現状

主な問題点は、建物の向きと案内板の表示の向きが対応していない点、現在地がわかりにくい点、立体的な構造がわかりづらい点に加え、部屋の名前が別表になっているので行きたいところを探すのに時間がかかるという点である。

第３章　結果や成果など

1．サインに関するセミナー受講

サインの種類や、サインデザインに必要なことなどを知ることができた。今回のプロジェクトにいかすことができると考えた学びは主に以下の３点である。

・良いサインデザインとは、必要な情報が整理されていて、使い手の立場に立って発信しているものである。

・サインは必ずしも必要というわけではない。なにもなくてもわかるようなつくりであることが望ましいのだが、どうしてもそれ自体だけではわからないときや、様々な人が集まる場所には必要である。

・サインの作り手は、受け手の立場にたってサインをデザインしなければならない。その際最も何を重視したサインであるかも考えなければ良いサインは作れない。一番目的に合っていて、利用者がわかりやすいということが良いサインの条件である。

２．現地視察、調査結果

（1）SDA 賞受賞作品と人の集まる場所のサインを視察

見る人にとってわかりやすく、心地よいサインにはいくつか特徴があるといえることがわかった。その項目をまとめたものが以下の通りである。

・わかりやすさ

一目でわかるシンプルさが必要である。理解するために時間がかかるものほど、印象が薄くなるため効果も落ちると考えられる。

・面白み

少し笑える要素やひねりがあると好感がもてる、また注目を集め、印象にも残りやすい。

・世界観の統一

カラーやフォント、デザインを統一することにより洗練された印象を与える。その場所の特徴やイメージなどをサインにも反映させることで、場所の個性を出すことができる。

・色彩

色を上手く使うことで、注目度を上げたり、メッセージを伝わりやすくする効果が期待できる。

・新鮮さ

日常的に見ていると背景となり、注目しなくなってしまう。

・イラスト

文字だけでなく、ピクトグラムやキャラクターなどを入れることで目にとまりやすく、一目で意味も伝わりやすい。

（2）他大学のサインの現状を調査

大学は、本学に限らず公共の施設や商業施設に比べると、見る人の心理を考慮した掲示・サインは少ない傾向にあることがわかった。しかし、学生などの工夫によりユニークな掲示を行っている所もあった。

３．サイン制作

（1）エレベーター横の「エレベーター使用自粛」についての掲示

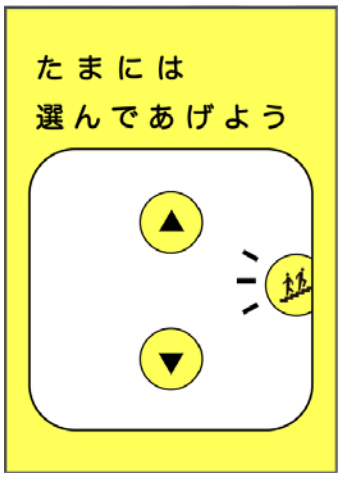
調査結果をいかして 5 つ（B 案～F 案）制作した。

A 棟 1 階～4 階と B 棟 2 階のエレベーター横に 1 枚ずつ 2014 年 12 月 18 日から掲示した。制作したポスター、及び掲示した様子は以下の通り。

B

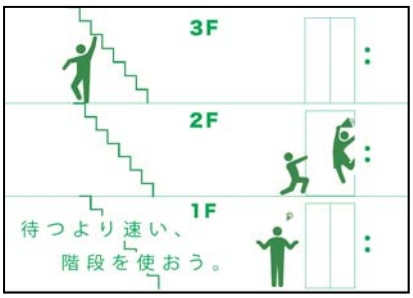
C

D

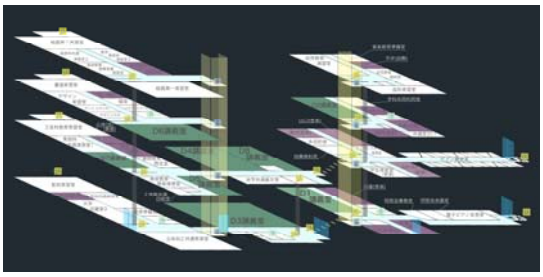


E

F



（2）D 棟の案内板



現地調査をいかして、案内板を制作し、D 棟 D3 講義室前の煉瓦の壁に 2014 年 12 月 18 日より掲示した。制作、掲示するにあたって以下の 5 点を工夫した。

・立体的にして、構造がつかめるようにした
・色分けすることにより、教室の種類をわかりやすくした
・建物の向きと、案内板の表示の向きをそろえた
・現在地がわかるようにした
・部屋の名前を地図上に入れ、部屋を探しやすいようにした

4．アンケート調査

（1）エレベーター横の「エレベーター使用自粛」についての掲示について

①目的

制作したそれぞれのポスターの受け手に与える印象や効果を明らかにし、今後のサイン制作にいかす。

②調査方法

アンケート対象者は本学在学中の学生（1 回生～院 2 回生まで）とし、集合調査法と訪問留置法で調査を行った。有効回答数は 61 部だった。

視察の結果から良いサインに必要であると考えられた以下の 6 項目について 6 段階で回答する評定法と、感想や意見を回答する自由記述により調査した。

問 1　表現に好感を抱くか
問 2　その場にそぐうか
問 3　制作者の意図がわかりやすいか
問 4　指示に従おうと思うか
問 5　表現に面白みを感じるか
問 6　注目度が高いか

③結果と考察

〈評定法〉

図に A～F のそれぞれの問に関する評価の平均値を示した。問 1「表現に好感を持つ」については、B が A、D、E、F より有意に評価が高いということがいえた。

問 2「その場にそぐう」については、C が D、E、F より有意に評価が高かった。

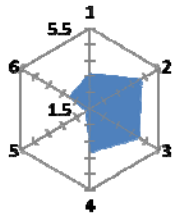
問 3「制作者の意図がわかりやすい」については B が A､D､F より有意に評価が高く、F より A、B、C、E が有意に評価が高かったので、F の方が A の現状よりわかりにくいという結果になった。

問 4「指示に従おうと思う」については B が A、D、F より有意に評価が高く、次いで C の評価が高かった。また、A と D の評価は低かった。

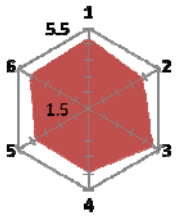
問 5「表現に面白みを感じる」については、E が A、D、F より有意に評価が高く、次いで C、B も評価が高い)。また、A が他のすべてのポスターより有意に評価は低かった。

問 6「注目度が高い」については、E が最も評価が高いが､次いで C と B も有意な差がなく評価が高い。A は他のすべてのポスターより有意に評価が低かった。

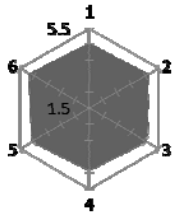
A



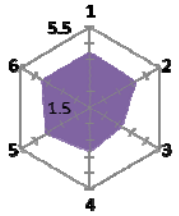
B



C

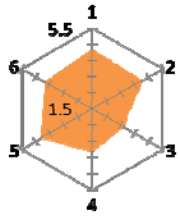


D



E

F



問１～６の評価

相関関係を見ると、全ての問同士が正の相関関係にあることがいえ、問１「好感を持つ」と問 2「場にそぐう」が強い相関関係にあることがわかった。

問 4「従おうと思う」とは、問 5「面白みを感じる」問 6「注目度が高い」問 3「わかりやすい」の順に相関関係が高いことがいえるため、効果的なポスターを作るためには特にそういった項目に留意すると良いといえる。

	問1	問2	問3	問4	問5	問6
問1	–	0.728	0.619	0.453	0.656	0.473
問2		_	0.612	0.422	0.524	0.387
問3			_	0.544	0.47	0.555
問4				_	0.587	0.578
問5					_	0.661
問6						_

表１　各問の相関を表す表

〈自由記述〉

A～E に関して感想などを自由記述で尋ねた。主な意見を以下に抜粋する。

A（現状）について

・分かりやすいけど､機械的だと思いました。

・“健常者” という言い方に疑問をもちます。

・絵が少なく、文章が多すぎる。3 枚も貼ってあるが、書いてあることはほぼ同じのように感じる。

・初見（短い時間で）読み、内容を理解するには文字が多い。

B について

・かわいらしくてあたたかいのでいいと思う。

・形、色、メッセージにおいてダイレクトに伝わる。当たり前でない形が注目度を上げる。

・自然に「そうだなぁ」と受けとることができる。

C について

・面白い。特に女性は食いつくと思う。

・階段使おう！ってなります

・キャッチフレーズとデザインがわかりやすく、シンプルなところが好みですが、他の方のために設置していることは伝わらないのが少し残念です。

D について

・なんとなくおもしろい

・黄色やから目立つのが良い。

・階段を使ってほしいという意図を汲み取りにくい。エレベーターのボタンより階段を大きくした方がわかりやすい

E について

・長方形でない形が面白い。注目を引く。サインの人たちがユーモアがあって面白い。

・とても印象的です

・イラストが斬新だと思いましたが、実際体の不自由な方や妊婦さんがどんな風に思われるかは、わからないと思いました。

F について

・楽しい。ポスターで物語があるのが良い。

・「待つより速い」というというのは誰にでも分かりやすいのでいいのではないかと思う。

・少し伝わりにくいように感じた。左下のキャッチコピーは分かりやすくて待っているとこに「階段」を使おうとなる可能性はある気がする。

〈その他の意見〉

アンケートの末尾にその他、学内掲示につ

いて意見や気付いたことなどを自由記述で尋ねた。回答の一部は以下の通り。
・絵やデータで伝えるポスターが増えると学生の目にもとまるチャンスは増えると思う。
・文章だけでさみしい掲示が多いので、明るい感じにしてもらえると楽しいと思います。
・なかなか官公庁発のものは、伝えたい側の思いや意図は大切にされているが、伝えたい人（受け取る側）に目にとめてもらうという工夫が感じられず、残念なものが多いと思っていました。今回のサインは豊かな発想で面白いです。

（２）D 棟の案内版

①目的

実際に制作した案内板を見た人の意見から、良かった点や今後の改善点を明らかにする。

②方法

案内板の下にアンケートボックスと筆記用具を用意し、D 棟利用者に自由記述で意見を書いてもらった。

③結果

回答の一部を抜粋したものが以下の通り。
・立体的でとてもわかりやすくなっていると感じました。
・うれしい、しかし遅かった
・方角も記入した方がいいのではないか
・現在地の赤がもっと鮮やかだとわかりやすいです
・レンガの壁に合うあたたかい色合いのものだと更に良いと思いました
・文字が小さいのでみにくい

第４章　まとめ

エレベーター横の掲示は、問３の F 以外は全ての問で A（現状）より、改善案として制作した B～F のポスターの評価が高いという結果になった。このことから、見る人にとっての印象、効果の面でより良いポスターを作ることができたといえる。

A（現状）は特に「注目度」、「面白み」、「好感度」の項目で評価が低かった。「指示に従おうと思う」と、最も高い相関間関係にあるのは「面白み」であり、次いで「注目度」、「わかりやすさ」という結果であったことから、現在のポスターに不足している「面白み」や「注目度」に留意して掲示・サインを制作することで、より制作者の意図する行動を効果的に促すことができるということがわかった。

また、F の「わかりやすさ」の評価が A より低かったことや、自由記述で「意味がわからない」という記述が多かったことから、面白みを狙って間接的な表現をしすぎると、制作者の意図が伝わらず、全体の評価が下がってしまうということもわかった。

総合的に高評価であった B はわかりやすい文言に加え、暖かい印象を与える色合いやデザインが好印象を与えたようだ。また、掲示としては見慣れない形（円形）だったことも注目度が上がり、好評価につながったようだった。

D 棟については「わかりやすい」「うれしい」という意見が得られたことにより、D棟を快適に利用することができる提案ができた。しかし、色合いや文字の大きさについて課題があることがわかったため、より快適にするための改善が必要である。

今回のプロジェクトの結果を生かして、効果的でわかりやすく、見る人にとって心地良い掲示・サインを制作することで、学内をより快適な空間にすることができると考える。今後、更に学内が快適な空間となるように、見る人のことを考慮した掲示・サインを考えていきたい。

＜参考・引用文献など＞

・「sign design handbook」社団法人日本サインデザイン協会　調査研究委員会、2005 年
・THE NEW YORK CITY OF HEALTH AND MENTAL HYGIENE
http://www.nyc.gov/html/doh/html/pr2008/pr033-08.shtml、2015 年 1 月